



田中 真喜 先生

略歴

- 2003年 日本歯科大学 卒業
東京医科歯科大学歯周病学分野 入局
- 2006年 吉野歯科診療所歯周病インプラントセンター（現 医療法人社団誠敬会）勤務
- 2008年 日本歯周病学会 専門医
- 2015年 医療法人社団誠敬会 理事長
- 2016年 日本歯周病学会 指導医
- 2017年 医療法人桃花会一宮温泉病院 顧問
奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野 非常勤講師
- 2019年 医療法人桃花会一宮温泉病院 理事

次世代型レーザーを用いた歯科治療の最前線

誠敬会クリニック

田中 真喜

現在、歯科で使用されている高出力レーザーは、炭酸ガス、半導体、Nd:YAG、Er:YAGの4種類が挙げられます。歯科用レーザーにはそれぞれ特徴があり、軟組織の切開、止血、凝固、蒸散に適しているレーザー、硬組織の蒸散に適しているレーザー、組織透過型レーザー、組織表面吸収型のレーザーなど、波長と出力の違いにより、得意分野・不得意分野が変わってくるため、適応症を選んで使用する必要があります。我が国において、一般開業医のレーザーの所有率は諸外国に比べ高くなっており、タービン、コントラ、ストレートなどの従来型の歯科用デバイスと同等に使われる様になってきています。しかし、これまでのレーザー機器は適応症に合わせて異なる波長や出力のレーザー機器を複数台買い揃える必要があり、全ての治療をレーザー1台のみで完結させる事は難しい状況でした。

新しく日本で薬事承認を受けた、スロベニアFotona社製の『LightWaker®』は、Nd:YAGレーザー、Er:YAGレーザーの2つの波長を搭載したツインレーザーという特徴があります。1台で軟組織・硬組織両方に使用する事ができるため、レーザー機器1台の適応範囲が格段広がりました。また、Er:YAGレーザーは最大出力が20Wと言う高出力で、極めて短時間で硬組織の蒸散が可能だけでなく、先端にチップを装着するコンタクトヘッドの他にノンコンタクトヘッドもあるため、ハンドリングがしやすく術野を明瞭に保つことができると言うメリットもあります。2つの波長を搭載している事により、両方の波長の特製を生かしたcombine therapyで新しいコンセプトの治療が可能となりました。

今回は、LightWaker®の特性とLightWaker®を用いる事により、治療の正確性の向上、適応拡大につながった症例を供覧しながらお話させていただきます。